

地域医療構想の果たすべき役割等について

資料 1 - 1

地域医療構想策定にあたっての背景等

- ◇県内総人口は近年、減少の一途。（人口問題研究所推計）
〔現状〕約92万人⇒〔2025年〕約87万人⇒〔2040年〕約73万人
- ◇和歌山県における今後の高齢者人口推移（ピーク）
65歳以上人口：2020年（R2年）頃にピーク
75歳以上人口：2030年（R12年）頃にピーク
- ◇人口減少に加えて人口構造が変遷していく中で、単なる量的な管理だけではなく、「治す医療」から「治し、支える医療」への質的転換が必要。

地域医療構想の果たすべき役割

地域医療構想は、各医療機関の機能分化と連携を図り、高度急性期・急性期・回復期・慢性期から在宅医療に至るまで**将来の医療需要を踏まえ、患者の病状に合った質の高い医療提供体制を構築**しようとするもの。

（※）医療法の規定に基づき「県保健医療計画の一部」として策定。

地域医療構想において定める事項

（1）将来（2025年）の医療需要と必要病床数を定める。

- 高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4機能ごとに推計
- 構想区域（二次保健医療圏を原則）単位で推計

【必要病床数に関する留意事項】

個々の医療機関単位で必要病床数を割り当てる構想ではなく、「構想区域単位」「医療機能区分単位」で必要病床数を定める。

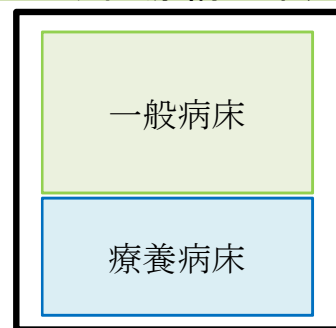
（2）地域医療構想を実現するための施策を定める。

- （施策例）○医療機能の分化・連携に係る取組、
○在宅医療の充実、
○医療従事者の確保・養成 等

病床再編のイメージ

（構想区域ごとに推進）

地域医療構想策定前



2025年



構想策定後は、医療法の規定に基づく協議の場「**地域医療構想調整会議**」を設置し、構想を達成するために必要な事項を協議。